

『おいらせ町自治基本条例策定に係るアンケート調査の実施結果について』

1. 実施概要

(1) 調査実施期間

平成19年2月13日～2月28日

(2) 調査方法

- ① 平成19年1月1日現在のおいらせ町住民基本台帳から20代、30代、40代、50代、60代、70代以上の各層から無作為に抽出した100名ずつ600名に対し郵送で配付、料金受取人払い郵便により回収した。うち、転居先不明等により不達票は2。
- ② 町民が自由に回答できるように役場、中央公民館、東公民館の各窓口にアンケート票と専用の回収箱を設置、回収した。

(3) 回収状況

- ① 郵送分の回収数は167、回収率は27.9%であった。
 - ② 窓口回収数は17
- 回収数計 184 票

(4) 設問の構成

設問は大きく2部構成とした。1部は回答者の属性 1.性別、2.年齢、3.住所、4.居住年数、5.世帯構成を聞いた。

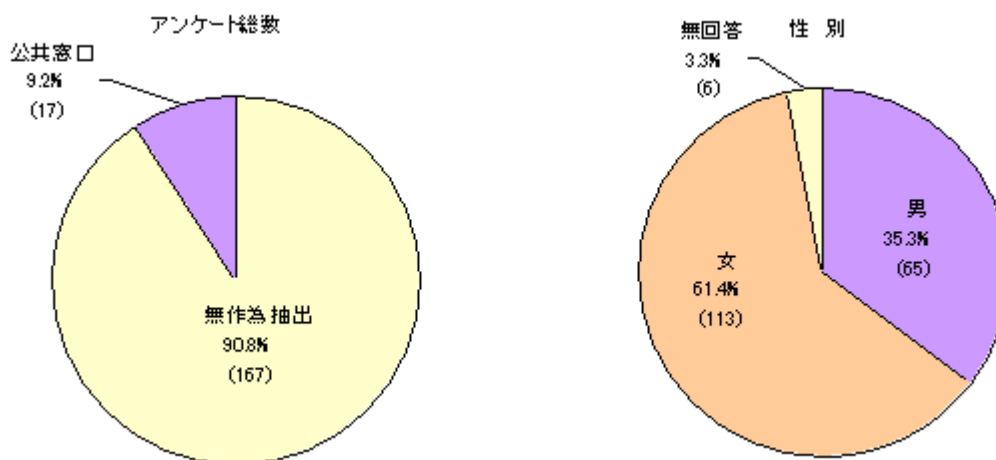
2部では暮らしやすさやまちづくりのあり方について、「1.まちの暮らしの満足度」、「2.町、議会、町民それぞれの役割と責任」、「3.町民の暮らしや権利」、「4.町民参加の方法」について5段階評価で聞いた。最後に自由記述意見のスペースを置いた。

2. 回答者の属性

回答は無作為抽出による住民 167 人 (90.8%)、公共施設窓口回収分が 17 人 (9.2%)、総数は 184 人であった。

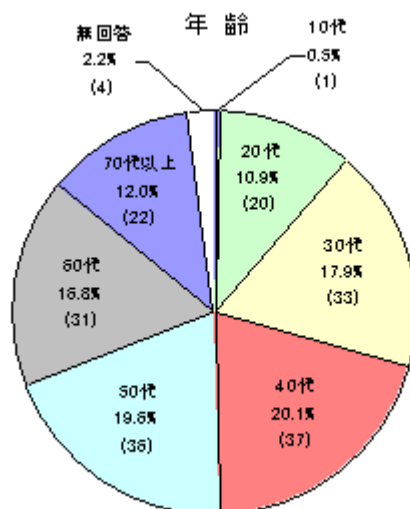
Q1 性別

回答者は男性 65 人 (35.3%)、女性 113 人 (61.4%) で、女性の方が多い。



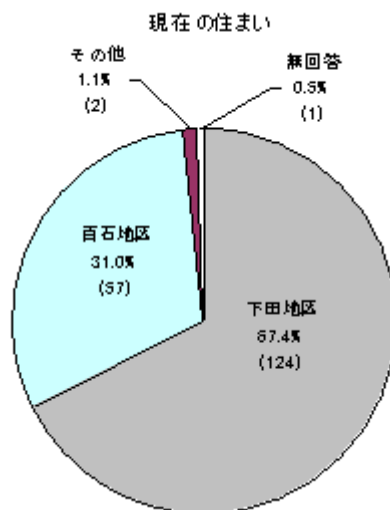
Q2 年齢

回答者の年齢層を見ると、40代と50代で全体の4割(39.7%)を占めている。各年齢層にわたってバランスよく回答を得ている。10代の1名は窓口回収分に含まれる。



Q3 現在の住まい

回答者の住まいを見ると、下田地区住民が124人（67.4%）、百石地区住民が（31.0%）で、下田地区住民が3分の2を占めて多かった。

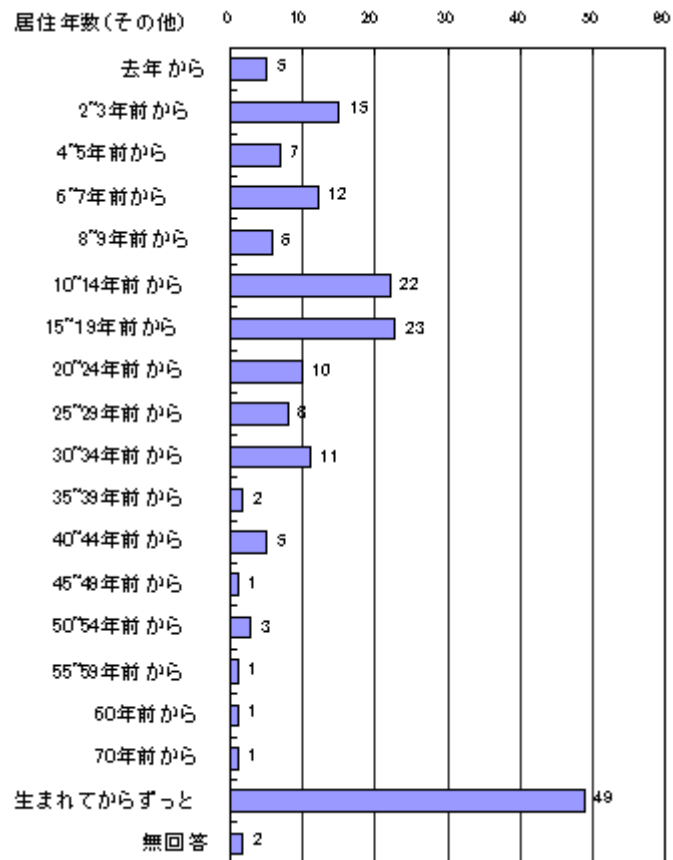
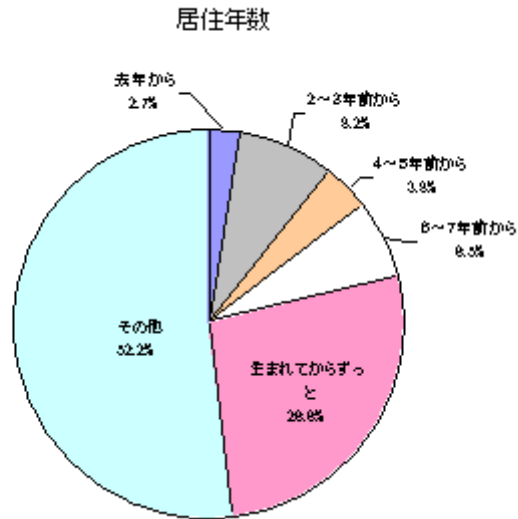


(GG)地区別住まい

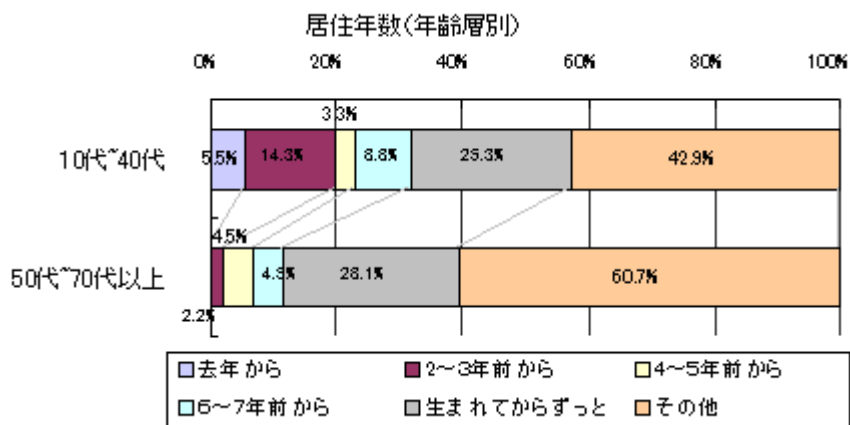
下田	青葉	12	6.5%	地	向川原	2	1.1%	石	下明堂	5	2.7%
	上久保	11	6.0%		木ノ下	2	1.1%		二川目	5	2.7%
	若葉	10	5.4%		下田町	2	1.1%		下屋敷	3	1.6%
	鶉久保	9	4.9%		明土	1	0.5%		上明堂	2	1.1%
	境田	9	4.9%		木崎	1	0.5%		掘切川	2	1.1%
	中下田	8	4.3%		下境	1	0.5%		牛込平	1	0.5%
	向山	8	4.3%		西後谷地	1	0.5%		後田	1	0.5%
	阿光坊	7	3.8%		西下谷地	1	0.5%		黒坂谷地	1	0.5%
	緑ヶ丘	7	3.8%		西前川原	1	0.5%		沼端	1	0.5%
	間木	5	2.7%		中平下長根	1	0.5%		東下谷地	1	0.5%
	下田消印	5	2.7%		三田	1	0.5%		深沢	1	0.5%
	浜道	4	2.2%		本村	1	0.5%		堀ノ内	1	0.5%
	瓢	4	2.2%		木内々	1	0.5%		向平	1	0.5%
	三本木	3	1.6%		小計	124	67.4%		藤ヶ森	1	0.5%
	住吉	2	1.1%		洋光台	13	7.1%		東公民館	1	0.5%
	新敷	2	1.1%		一川目	11	6.0%		小計	57	31.0%
南下田	2	1.1%	百石消印	6	3.3%	その他・無回答	3	1.6%			
				合計	184	100.0%					

Q 4 現在地への居住年数

回答者の現住所への居住年数をみると、6～7年以内の人が21.2%、「生まれてからずっと」の人が26.6%、その他が52.2%であった。「その他」の内訳は「15～19年」（12.5%）と「10～14年」（12.0%）がもっとも多い。



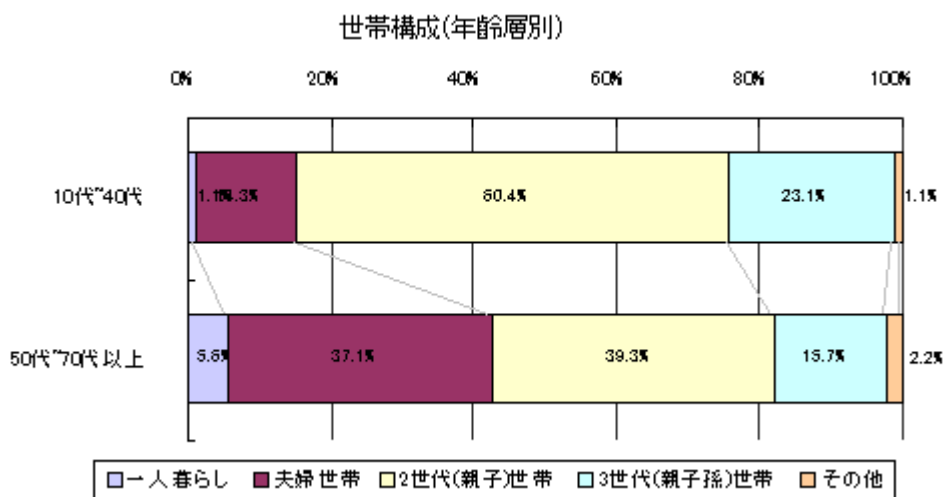
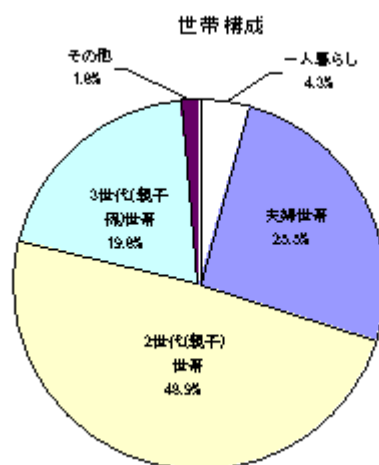
これを40代までの若い層と50代以上の中高年層を比較すると、40代までの若い住民の3割（31.8%）は現在の住所に住んで6～7年以内であった。一方、50代以上では現在の住所に住んで6～7年以内という住民は1割（11.2%）と少なかった。



Q5 回答者の世帯構成

回答者がどのような世帯構成で暮らしているかをみると、2世代（親子）世帯が最も多くほぼ半数（48.9%）を占めた。次いで夫婦世帯（25.5%）、3世代（親子孫）世帯（19.6%）であった。

これを40代までと50代以上で比較すると、40代までの層は2世代世帯が6割を越えており（60.4%）、3世代世帯も23.1%と多いのに対し、一人暮らしは1人（1.1%）と少なかった。50代以上でも2世代世帯が39.3%で4割近くと多いが、夫婦世帯（37.1%）や一人暮らし世帯（5.6%）も多いことがわかる。

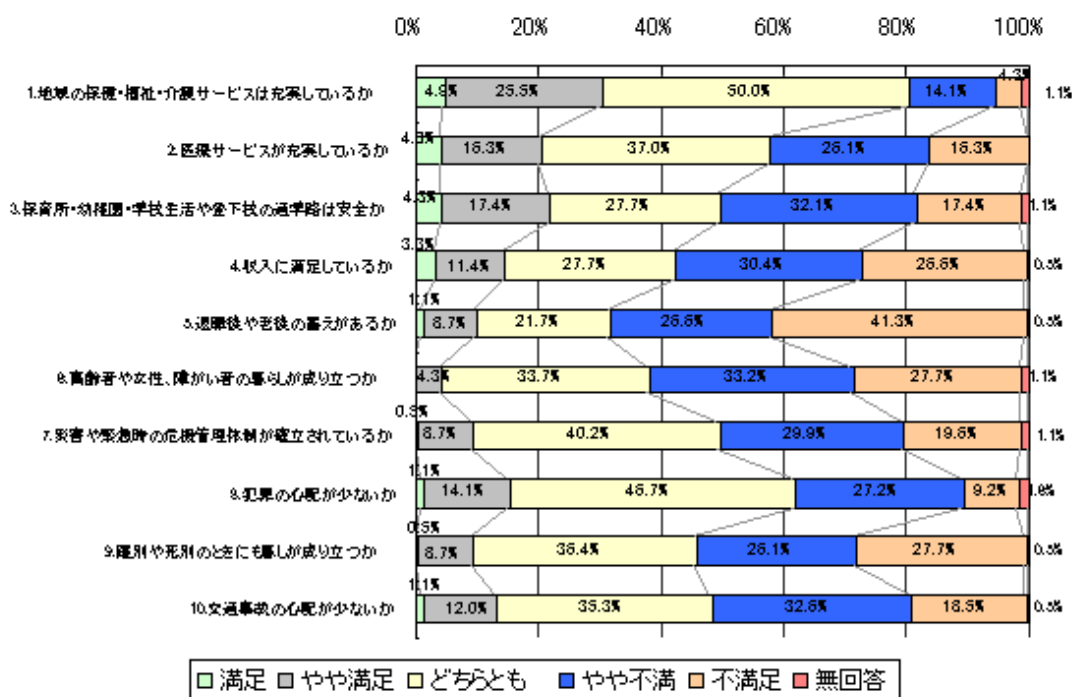


3. まちの暮らしの満足感

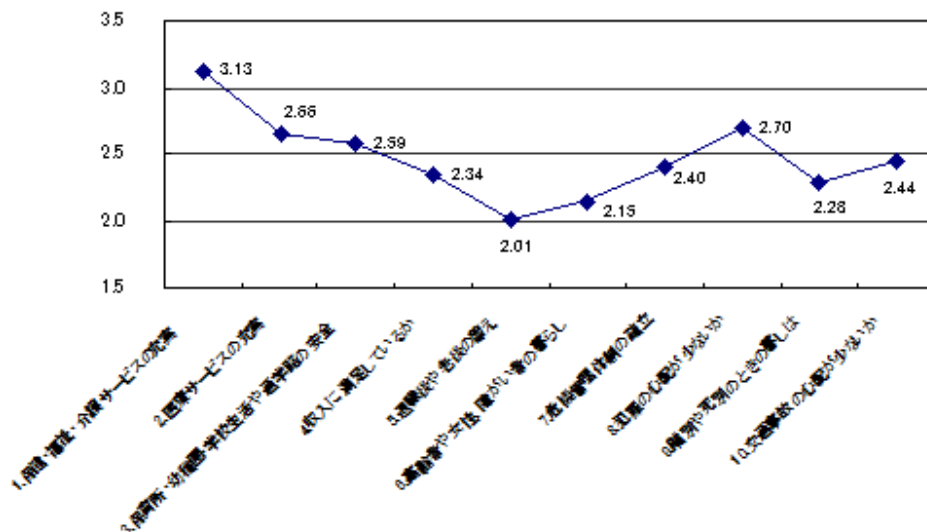
(1) 暮らしの安心や安全が守られるまちか

まちの暮らしの満足感について5段階で気持ちに近いものを聞いた。平均点が5に近いほど満足度は高く、ところ、もっとも高かったのは、「1. 地域の保健・福祉・介護サービスは充実しているか」で3.13、次いで「8. 犯罪の心配が少ないか」で2.70、「2. 医療サービスが充実しているか」が2.66と続いた。もっとも低かったのが、「5. 退職後や老後の蓄えがあるか」で2.01、これに「6. 高齢者や女性、障がい者の暮らしが成り立つか」で2.15、「9. 離別や死別のときにも暮らしが成り立つか」で2.28であった。

<1-1> 暮らしの安心や安全が守られるまちか



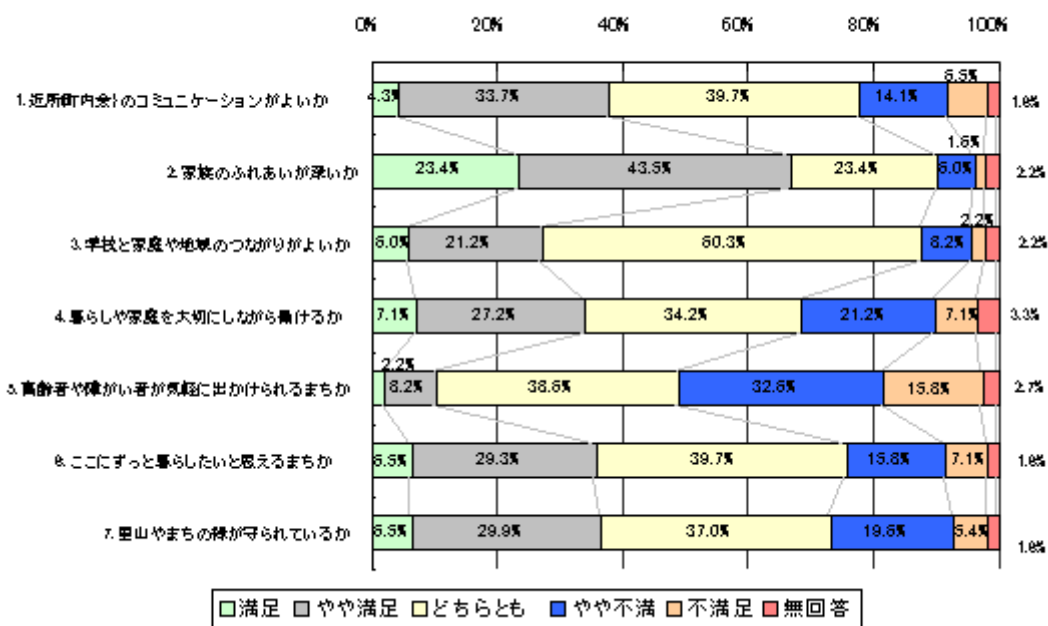
暮らしの安心や安全が守られるまちか(平均点)



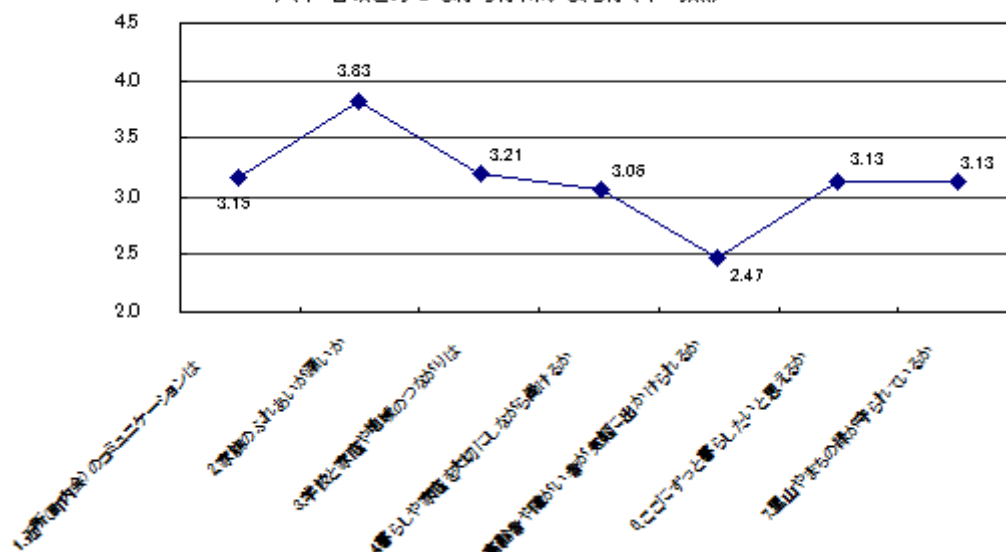
(2) 人や地域とのつながりが深いまちか

人や地域とのつながりについて聞いたところ、もっとも満足度の高かったのは、「2. 家族のふれあいが深いか」で3.83、次いで「3. 学校と家庭や地域のつながりがよいか」が3.21、「1. 近所（町内会）のコミュニケーションがよいか」が3.15と続いた。もっとも低かったのは、「5. 高齢者や障がい者が気軽に出かけられるまちか」で2.47、次いで「6. ここにずっと暮らしたいと思えるまちか」と「7. 里山やまちの緑が守られているか」が何れも3.13であった。

<1-2>人や地域とのつながりが深いまちか

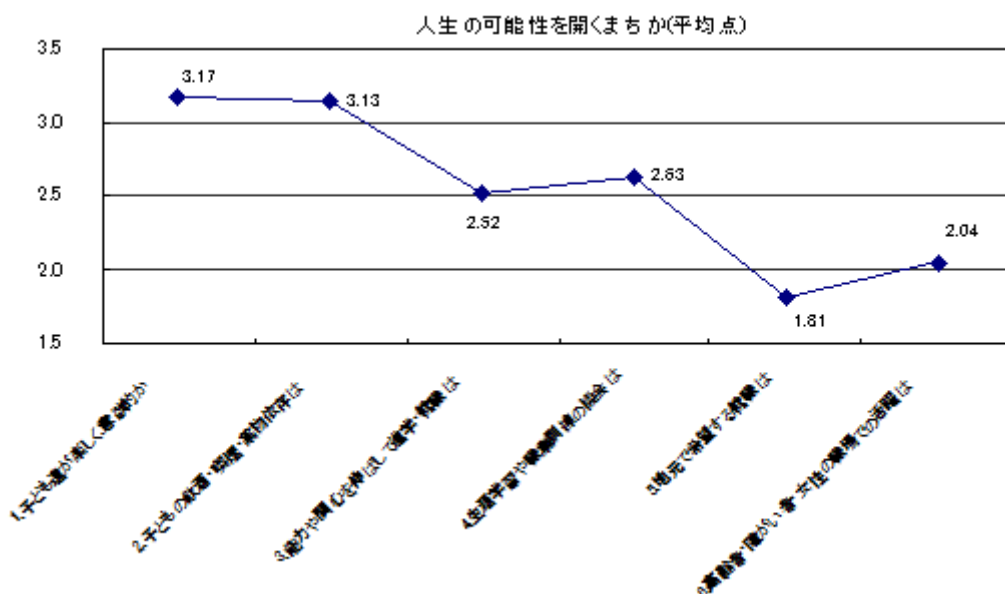
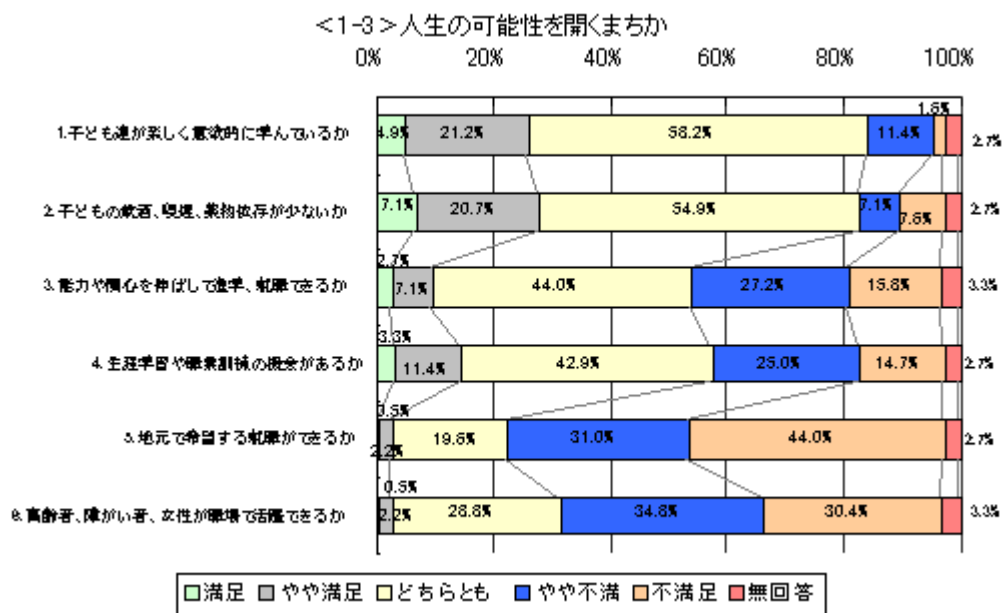


人や地域とのつながりが深いまちか(平均点)



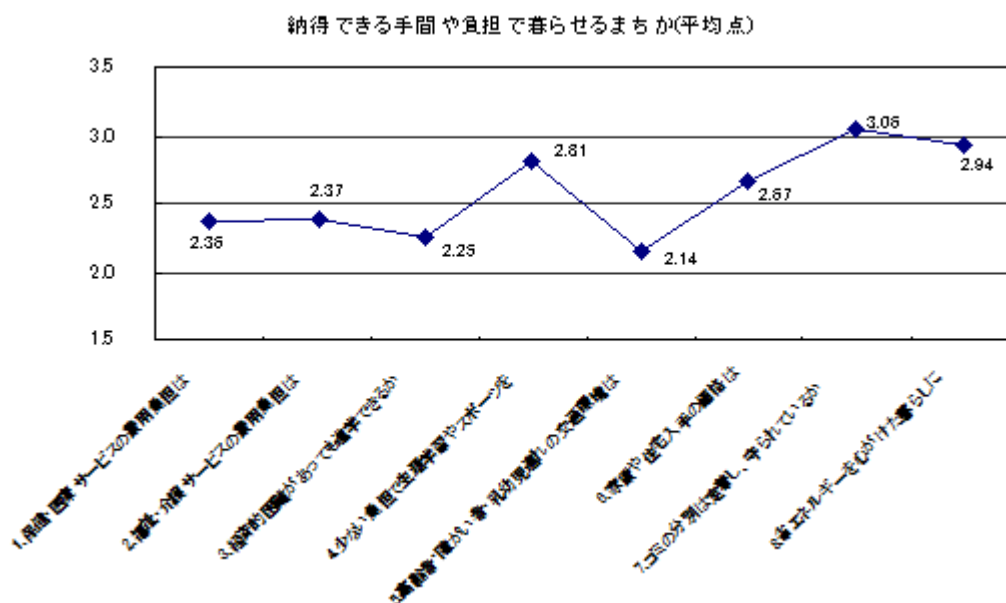
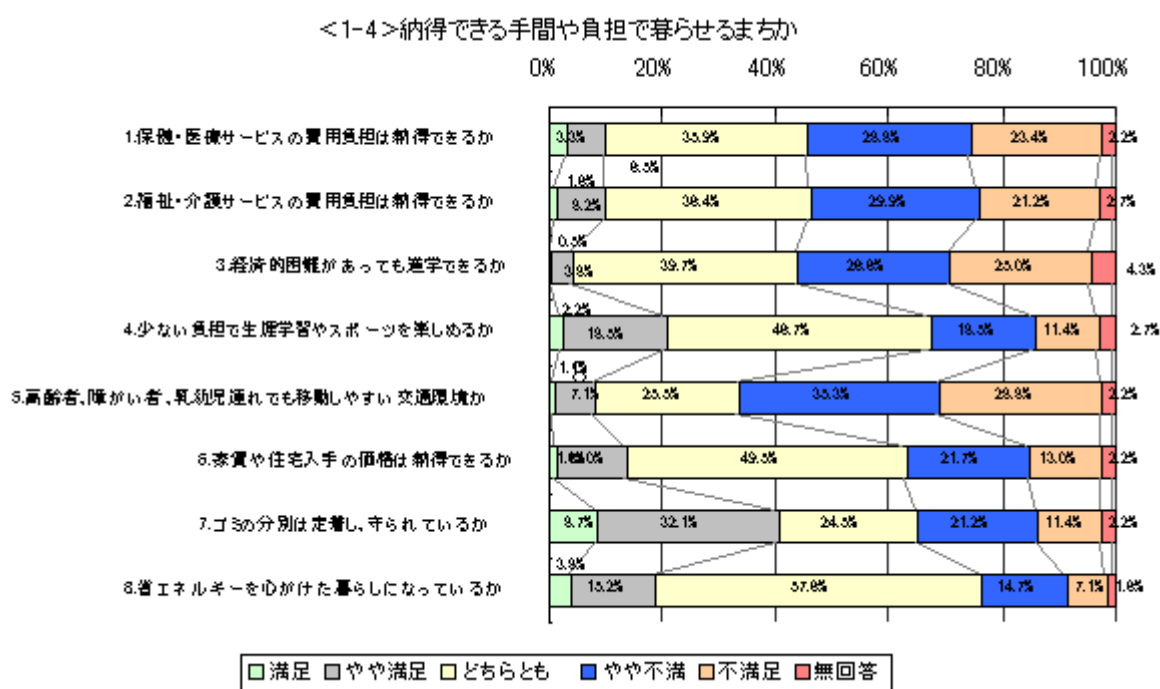
(3) 人生の可能性を開くまちか

「人生の可能性を開くまちか」と聞いたところ、もっとも満足度が高かったのは、「1.子ども達が楽しく意欲的に学んでいるか」が3.17、次いで「2.子どもの飲酒、喫煙、薬物依存が少ないか」が3.13と続いた。もっとも低かったのは「5.地元で希望する就職ができるか」で1.81、次いで「6.高齢者、障がい者、女性が職場で活躍できるか」が2.04と続いた。



(4) 納得できる手間や負担で暮らせるましか

「納得できる手間や負担で暮らせるましか」について聞いたところ、もっとも満足度が高かったのは、「7. ゴミの分別は定着し、守られているか」で3.06、次いで「8. 省エネルギーを心がけた暮らしになっているか」で2.94、「4. 少ない負担で生涯学習やスポーツを楽しめるか」が2.81と続いた。もっとも低かったのは、「5. 高齢者、障がい者、乳幼児連れでも移動しやすい交通環境か」が2.14、次いで「3. 経済的困難があっても進学できるか」で2.25、「1. 保健・医療サービスの費用負担は納得できるか」が2.36と続いた。



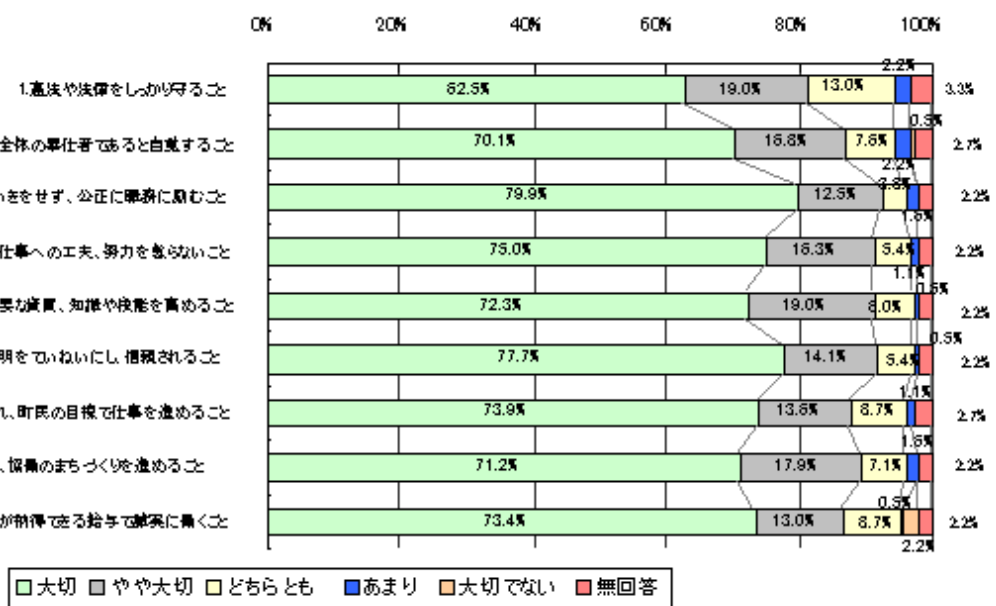
4. まちづくりに果たす役割と責任

(1) 町長、町の職員の役割と責任で大切なのは？

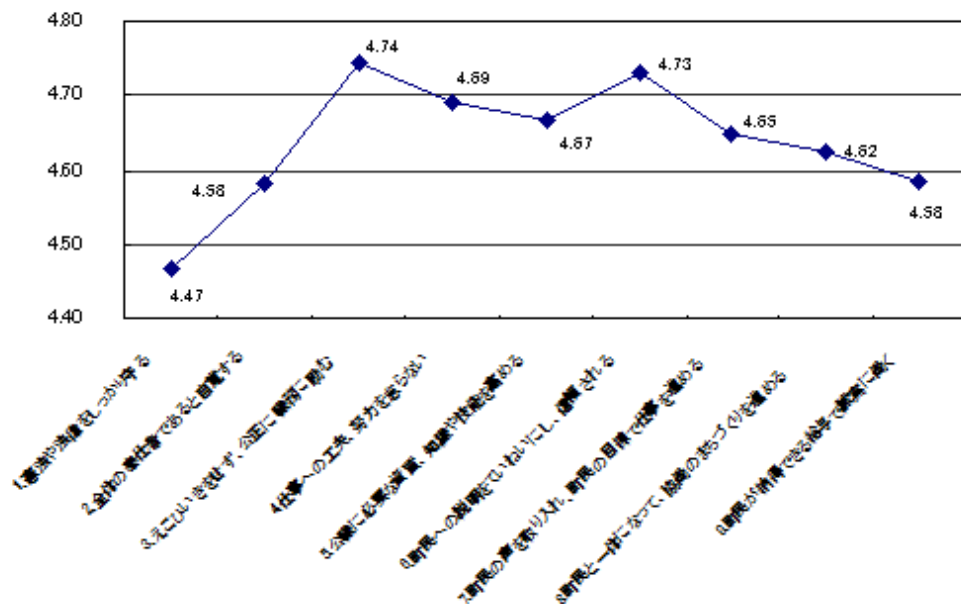
「町長、町の職員の役割と責任で大切なのは」、「7. えこひいきをせず、公正に職務に励むこと」が4.74でもっとも高く、次いで「6. 町民への説明をていねいにし、信頼されること」が4.73、「4. 仕事への工夫、努力を怠らないこと」が4.69と続いた。

もっとも低かったのは「1. 憲法や法律をしっかりと守ること」で4.47、次いで「2. 全体の奉仕者であると自覚すること」と「9. 町民が納得できる給与で誠実に働くこと」が4.58で並んだ。いずれも4.47以上の平均点であった。

<2-1>町長、町の職員の役割と責任で大切なのは



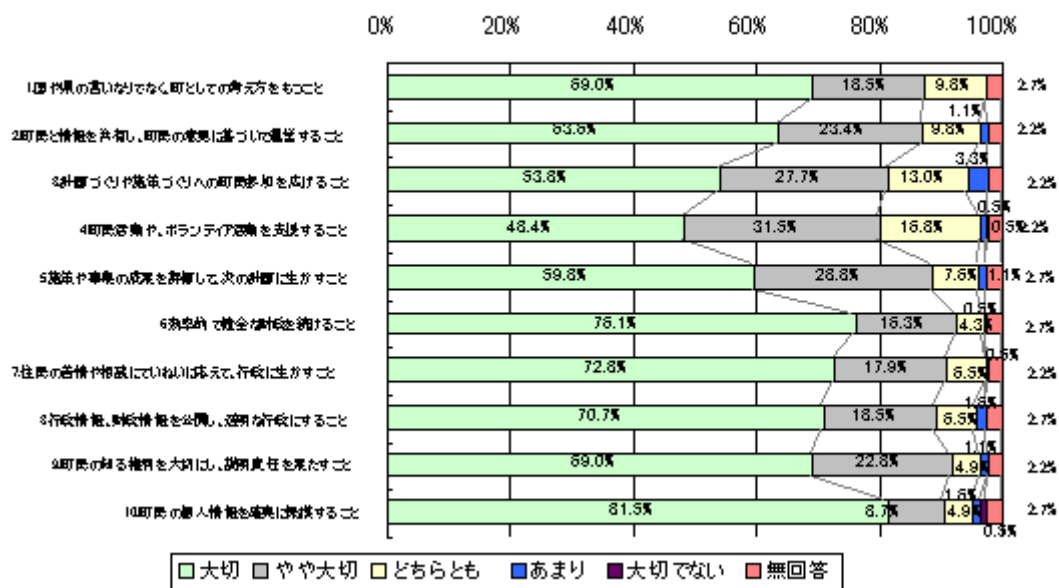
町長、町の職員の役割と責任で大切なのは(平均点)



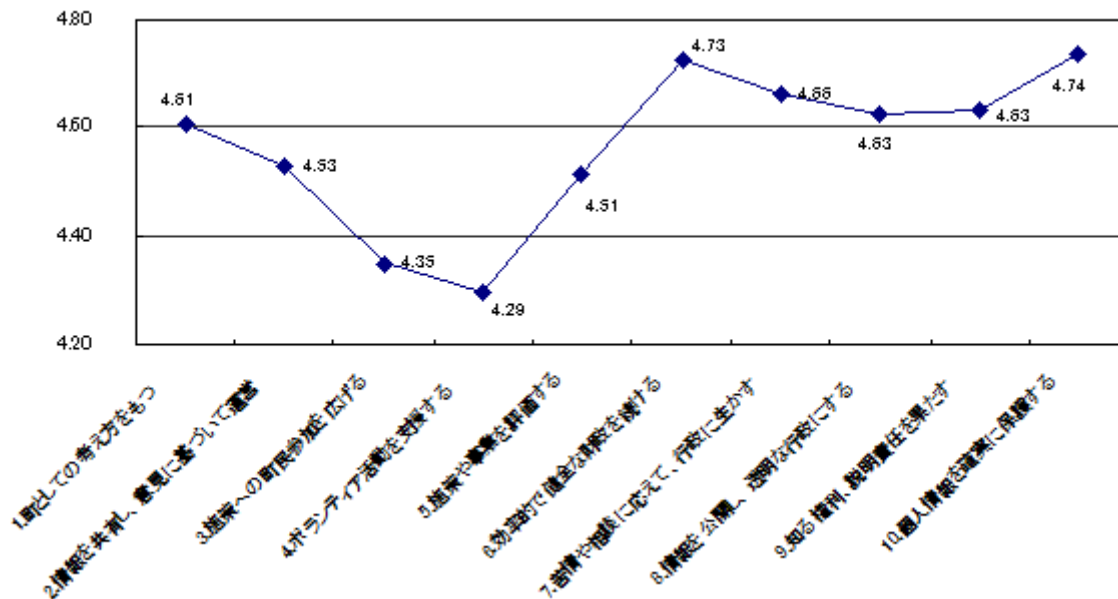
(2) 町政運営のあり方で大切なのは？

「町政運営のあり方で大切なのは？」と尋ねたところ、「10. 町民の個人情報を実際に保護すること」が4.74でもっとも高く、次いで「6. 効率的で健全な財政を続けること」が4.73、「7. 住民の苦情や相談にたいねいに応えて、行政に生かすこと」が4.66と続いた。またもっとも低かったのが「4. 町民活動やボランティア活動を支援すること」で4.29、次いで「3. 計画づくりや施策づくりへの町民参加を広げること」が4.35、「5. 施策や事業の成果を評価して、次の計画に生かすこと」が4.51であった。

<2-2> 町政運営のあり方で大切なのは



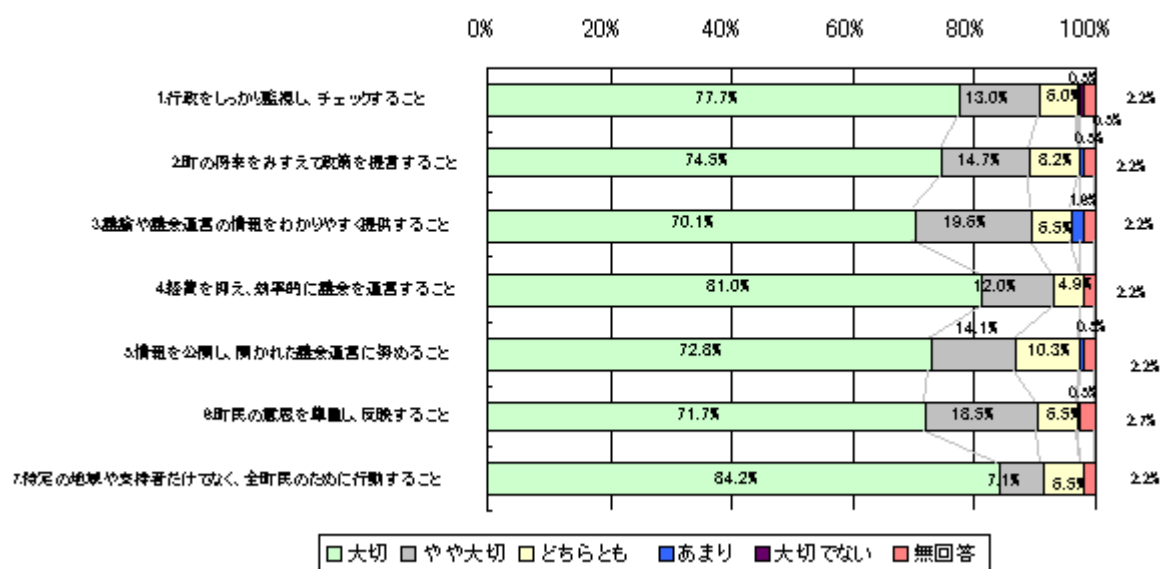
町政運営のあり方で大切なのは(平均点)



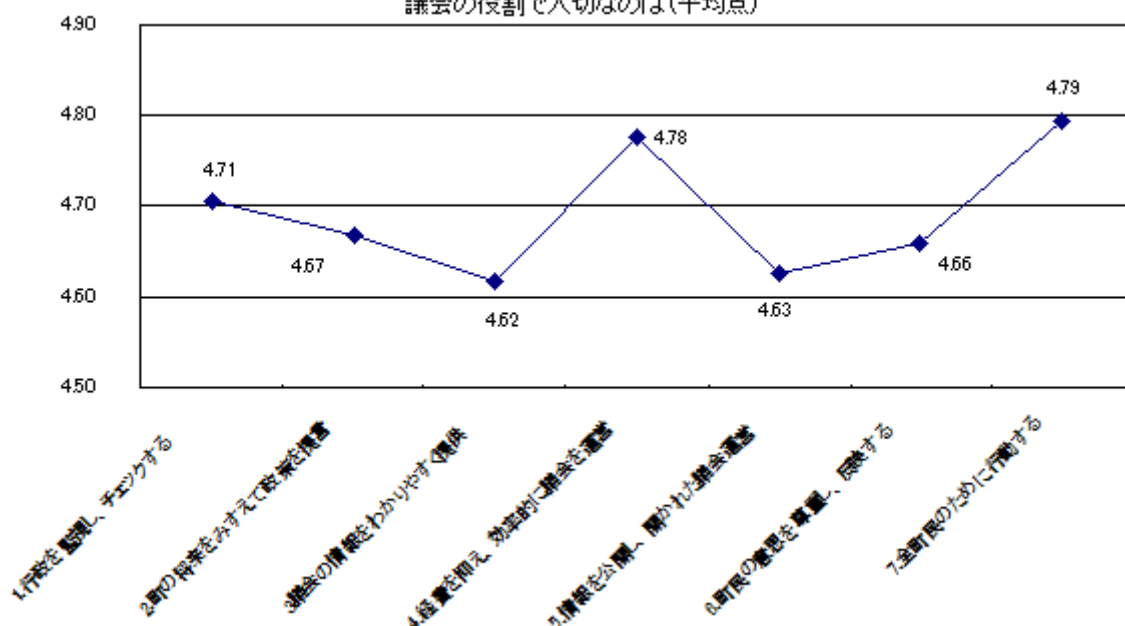
(3) 議会の役割で大切なのは？

「議会の役割で大切なのは？」と尋ねたところ、「7. 特定の地域や支持者だけでなく、全町民のために行動すること」が 4.79 でもっとも高く、次いで「4. 経費を抑え、高率的に議会を運営すること」が 4.78、「1. 行政をしっかりと監視し、チェックすること」が 4.71 と続いた。またもっとも低かったのが、「3. 議論や議会運営の情報をわかりやすく提供すること」で 4.62、次いで「5. 情報を公開し、開かれた議会運営に努めること」が 4.63、「6. 町民の意見を尊重し、反映すること」が 4.66 であった。いずれも高い点がつけられている。

<2-3>議会の役割で大切なのは

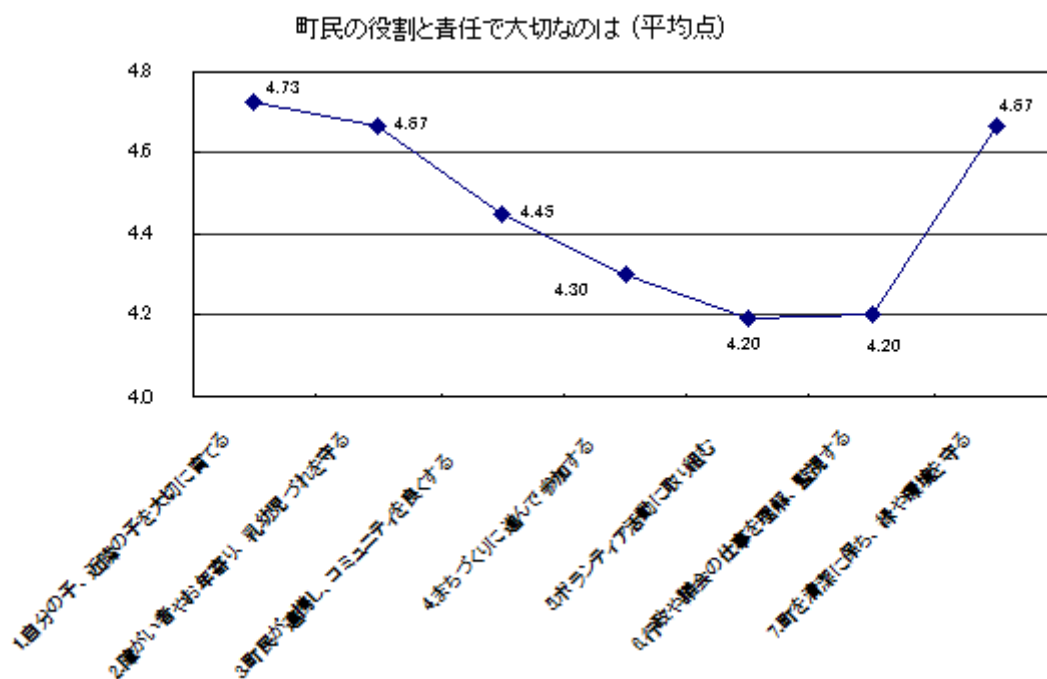
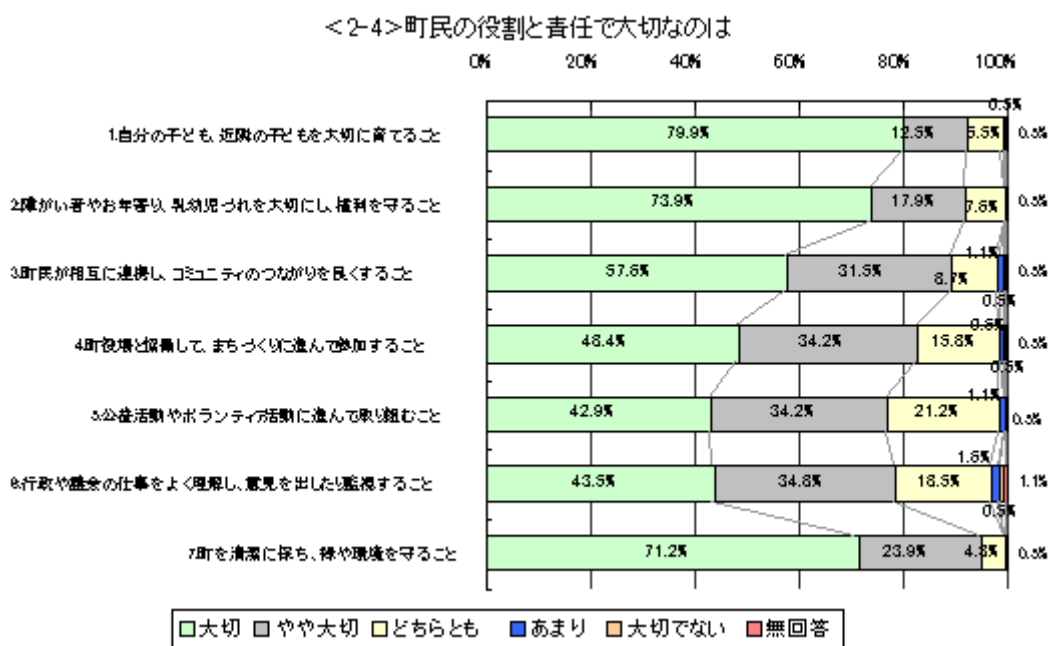


議会の役割で大切なのは(平均点)



(4) 町民の役割と責任で大切なのは

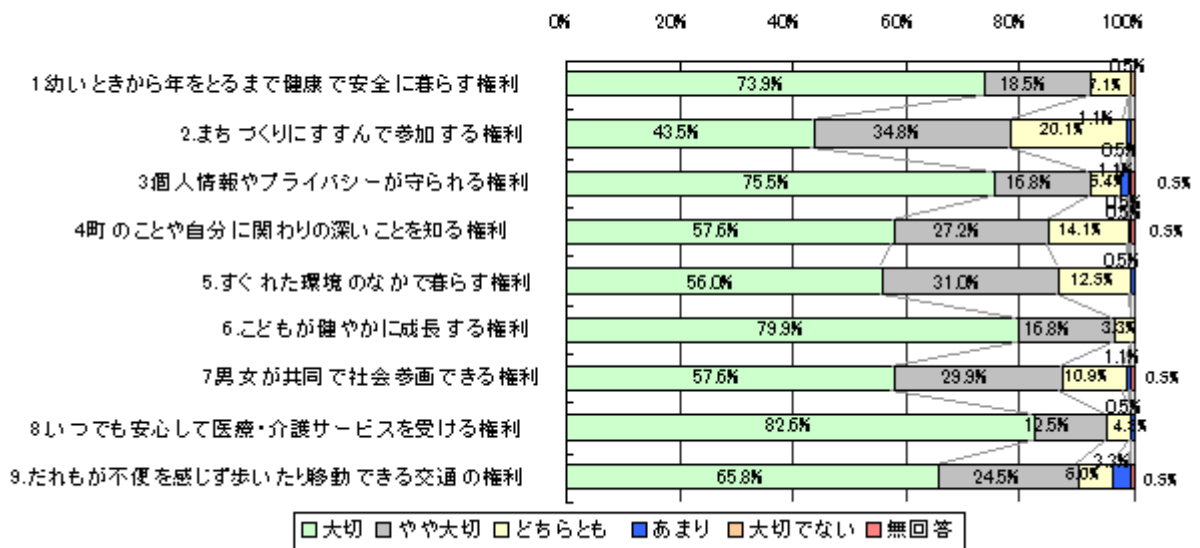
「町民の役割と責任で大切なのは」、「1. 自分子ども、近隣の子どもを大切に育てること」が 4.73 でもっとも高く、次いで「2. 障がい者やお年寄り、乳幼児づれをたいせつにし、権利を守ること」と「7. 町を清潔に保ち、緑や環境を守ること」がいずれも 4.67 で並んだ。もっとも低かったのは、「5. 公益活動やボランティア活動に進んで取り組むこと」と「6. 行政や議会の仕事をよく理解し、意見を出したり監視すること」がいずれも 4.20 で並んだ。次いで「4. 町役場と協働して、まちづくりに進んで参加すること」が 4.30 であった。



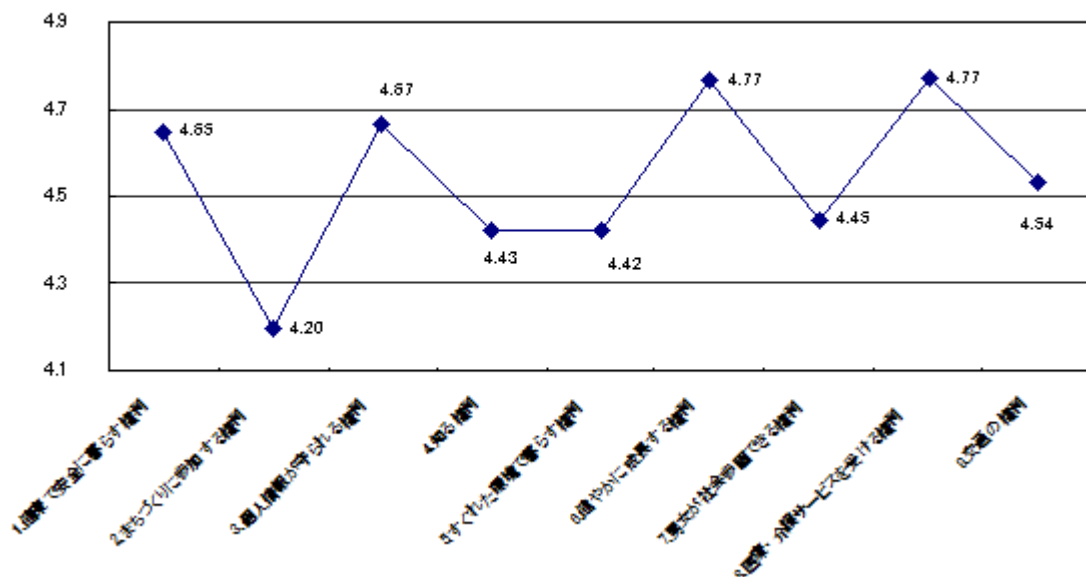
5. 町民の暮らしや「権利」を守る責任

町民の暮らしや「権利」を守る責任について、もっとも大切とされているのは「6. 子どもが健やかに成長する権利」と「8. いつでも安心して医療・介護サービスを受ける権利」でいずれも4.77で高く、次いで「3. 個人情報やプライバシーが守られる権利」(4.67)であった。もっとも低かったのが、「2. まちづくりにすすんで参加する権利」で4.20、次いで「5. すぐれた環境のなかで暮らす権利」(4.42)、「4. 町のことや自分に関わりの深いことを知る権利」(4.43)であった。

< 3 > 町民の暮らしや「権利」を守る責任について



町民の暮らしや「権利」を守る責任について (平均点)



6. まちづくりへの参加の方法

(1) まちづくりに必要とされる町民参加の方法について

「2. 行政と住民の協働のまちづくり」が4.42でもっとも高く、次いで「8. 第三者による行政監視（オンブズパーソン制度など）」が4.29、「7. 住民投票の条例づくり」が4.28と続いた。もっとも低かったのが、「3. 審議会や委員会の委員の公募」で4.11、次いで「1. 町長や職員との対話の機会」が4.21、「5. 選挙のときの公開討論」が4.23であった。

